2026 年 11 月 5 日

各　位

会社名　　株式会社情報戦略テクノロジー
代表者名　代表取締役社長　　高　井　　淳
（コード番号：155A　東証グロース市場）
問合せ先　取　締　役　　瀧　本　　崇
（TEL 03-6277-3461）

【特別対談 about AI #2】「AI は差別化要因にならない」――営業現場の AX と「ヒューマニティ」の真価を語る対談記事（前編・後編）を公式 note で公開

～代表取締役社長 高井と AICT 部 ミッション・ディレクター 藤本が語る、「2 割の急所」から始める変革と、コーポレートバリュー「PANACHE」が導く共創の未来～

株式会社情報戦略テクノロジー（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：高井 淳、以下「当社」）は、2026 年 9 月に新設した社長直轄組織「AICT 部」が営業現場から進める AX（AI トランスフォーメーション）と、AI が普及した時代に問われる人間の価値をテーマに、代表取締役社長の高井 淳と AICT 部 ミッション・ディレクターの藤本 雅俊が語り合う特別対談記事【特別対談 about AI #2】を、前編・後編の 2 回にわたり公式 note にて公開いたしましたことをお知らせいたします。

本対談では、代表取締役社長の高井 淳と AICT 部 ミッション・ディレクターの藤本 雅俊が対談し、前編では、AICT 部が最初のテーマに営業プロセスの AX を選んだ理由と、物事を前進させる「2 割の急所」を見極める考え方、AI が普及した先で差別化の源泉となる「ヒューマニティ」の意味を、後編では、理想を掲げることで生じる摩擦（ハレーション）を乗り越える「ムーンプロジェクト」の考え方と、当社のコーポレートバリュー「PANACHE（パナシェ）」が導く顧客企業との共創の未来を語っています。





記

■公式 note 記事 概要

記事タイトル（前編）：【特別対談 about AI #2】（前編）「AI は差別化要因にならない」――情報戦略テクノロジーが挑む営業現場の AX と、人間本来の価値を問う“2 割”の急所

記事タイトル（後編）：【特別対談 about AI #2】（後編）アポロ計画に学ぶハレーションの乗り越え方――「ムーンプロジェクト」とコーポレートバリュー「PANACHE」が解き放つ日本の未来

対　談　者：代表取締役社長　高井 淳

AICT 部 ミッション・ディレクター　藤本 雅俊

記事公開 URL：

・前編：https://note.is-tech.co.jp/n/n2d91a24e6548

・後編：https://note.is-tech.co.jp/n/nbab3f32e9d98

■対談記事のハイライト（前編）

1．2 割の本質を突き、瞬発力で風穴を開ける──なぜ「営業現場の AX」から着手したのか

◇事業の最前線から始める、スピード感ある AI 実装

AICT 部が最初のテーマに、間接部門の定型業務効率化ではなく、事業の最前線である営業プロセスの AX を選んだ理由を紹介。商談や会議の内容を AI でテキスト化・構造化し、SFA（営業支援システム）への入力までをつなぐことで手作業そのものをなくしていくアプローチと、物事を大きく前進させる「2 割の急所」を見極める考え方を語ります。

2．目の前の最適化に溺れない──「視野狭窄」を排し、暗黙知を資産へと昇華させる

◇目の前の作業ではなく、仕事の目的から逆算する

AI 実装で陥りがちな「今ある作業を AI で置き換える」発想を戒め、業務の目的に立ち返って仕事のあり方を再定義する重要性を解説。商談や社内の対話に埋もれていた文脈や顧客の潜在ニーズを、後から分析・活用できるデータとして蓄積する取り組みと、トライアルに参加した営業メンバーが自ら活用法を議論し始めた社内の変化を紹介します。

3．なぜ「AI は差別化要因にならない」のか──行き着く世界で試される「ヒューマニティ」の真価

◇誰もが最適な答えを得られる世界で、人間は何で勝負するのか

AI が普及すれば戦略やアイデアの領域で差がつきにくくなるという見立てのもと、AI では代替できない「ヒューマニティ」こそが価値の源泉になると提示。知と知、心と心の化学反応によって相手の潜在能力を引き出す力や、時間をかけて築く人と人との信頼関係の大切さを語ります。

■対談記事のハイライト（後編）

4．理想を掲げれば、必ずハレーションが起きる──「ムーンプロジェクト」とアポロ計画に学ぶ変革の覚悟

◇高い理想から逆算し、変革に伴う摩擦を乗り越える

現状の延長線上の改善ではなく、高い理想を掲げてそこから逆算する「ムーンプロジェクト」の考え方を、アポロ計画になぞらえて紹介。創業期に元請け（プライム）案件に特化すると掲げた当社の歩みや、変革の初期は少数の協力者とともに結果を出して周囲を巻き込んでいく組織づくり、AICT 部が自らの成果で示すエバンジェリストとしての姿勢を語ります。

5．コーポレートバリュー「PANACHE（パナシェ）」が導く──顧客企業と日本の潜在能力を解き放つ未来

◇AI とヒューマニティの両輪で、顧客企業と並走する

AI によって定型作業から解放された社員が、それぞれの専門領域で「相手のために何ができるか」を考える組織の姿と、現場の言葉になっていない暗黙知をすくい上げ、顧客企業と並走しながら課題を形にしていく共創のあり方を紹介。当社の行動規範であるコーポレートバリュー「PANACHE（パナシェ）」と、その根底にある「正義と愛」について語ります。

■代表取締役社長 高井 淳 のコメント（対談より抜粋）

「AI は膨大なデータから最適な解を導き出します。つまり、戦略の策定やアイデアの創出といった領域において、AI による差はほとんどなくなってしまうのです。誰もが最適な答えを手に入れられる世界において、AI を扱えること自体は何の差別化にもなりません。では、人間は何で勝負するのでしょうか。それは、AI には決して代替できない『ヒューマニティ』に他なりません。（中略）だからこそ私は社員に、『単純な作業は AI に任せて、ヒューマニティを磨く時間に充ててほしい』と言い続けています。」

■AICT 部 ミッション・ディレクター 藤本 雅俊 のコメント（対談より抜粋）

「私たちが目指しているのは、AICT 部が AI の道具立てを整え、現場の各部門がそれぞれの専門領域でヒューマニティを爆発させる世界です。（中略）AI によって定型作業から解放された社員たちが、自分たちの強みを活かして『相手のために何ができるか』を自発的に考え始める。この変化のきっかけを創り出すことこそが、AICT 部の本質的なミッションです。」

■今後の展望

当社は、AICT 部を中心とした全社の AX と、社員一人ひとりのヒューマニティを掛け合わせることで、お客様の潜在能力を解き放つ支援を目指してまいります。今後も公式 note の連載「特別対談 about AI」をはじめとする情報発信を通じて、当社の AI 活用の考え方と実践の取り組みを順次お届けしてまいります。

■関連リリース

2026 年 10 月 29 日「【特別対談 about AI #1】AI を「配る」時代は終わった――人間にしかできない価値を極限まで尖らせる、情報戦略テクノロジーの新・逆転シナリオを公式 note で公開」

https://ssl4.eir-parts.net/doc/155A/tdnet/2900518/00.pdf

■会社概要

【株式会社情報戦略テクノロジー】

会社名：株式会社情報戦略テクノロジー（東証グロース・155A）

代表者：代表取締役社長 高井 淳

所在地：東京都渋谷区恵比寿四丁目 20 番 3 号 恵比寿ガーデンプレイスタワー15F

電　話：03-6277-3461

事業内容：大手企業向け DX 内製支援サービス等

URL：https://www.is-tech.co.jp/

以上